

## 「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方（案）」に対する市民意見と神戸市の考え方（項目別）

## (1) 計画の必要性

意見の要旨	神戸市の考え方
<p>・人口減少対策の1つとして、コンパクト化は有効だと思う。</p> <p>50年後も神戸が魅力的なまちであり続けるためにもこの計画の取り組みを進めてほしい。</p> <p>・計画には反対。必要性を説明してほしい。</p>	<p>神戸市では、2012年から人口減少が始まっており、「国立社会保障・人口問題研究所」の推計方法に準拠して算出した数値では、2015年から2060年にかけて約44万人減少すると推計しています。</p> <p>神戸市は、これまでも鉄道駅を中心に生活利便施設を配置し、その周辺に住宅地が広がる比較的コンパクトな都市構造を構成し、安全・安心・快適に住み続けられるまちづくりを進めてきました。</p> <p>人口減少局面を迎えた今、神戸市においても、都市全体の人口密度の低下や低未利用地の増加が生じ、都市の内部において空家空地などが数多くまばらに発生する「都市のスポンジ化」と呼ばれる現象が発生しており、その影響もあり、スーパーなどの生活利便施設が撤退している地域も出てきています。</p> <p>本計画は、将来を見据えてどのような方向で人口減少に対応した神戸のまちづくりを進めていくのかをお示しし、人口減少に対応する取り組みを進めるために策定していきます。</p> <p>本計画の1つの目的としては、都市機能を民間により維持・集積する「居住推奨区域」を設定し、一定の人口規模と密度を保つことで、生活サービスを提供するようなまちづくりを行っていくことです。</p> <p>もう1つの目的は、「ゆとりある居住区域」において、地域の特徴・特性を活かしたまちづくりを行っていくことです。</p> <p>ただし、防災上課題がある区域については、お住まいの方々に、より安全・安心に暮らしていただけるよう、早期移転に向けた取組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>日本全体の人口が減少している中で、これまで通り人口増加を前提とした都市計画から転換し、将来にわたり神戸市が選ばれるまちであり続けるために、早い段階から取り掛かり、長い時間をかけて着実に取り組みを進めていきたいと考えています。</p>
<p>神戸市全域で今後も安心してくらせる計画にすべき。</p>	<p>神戸市は、これまでも鉄道駅を中心に生活利便施設を配置し、その周辺に住宅地が広がる比較的コンパクトな都市構造を構成し、安全・安心・快適に住み続けられるまちづくりを進めてきました。</p> <p>人口減少局面を迎えた今、神戸市においても、都市全体の人口密度の低下や低未利用地の増加が生じ、都市の内部において空家空地などが数多くまばらに発生する「都市のスポンジ化」と呼ばれる現象が発生しており、その影響もあり、民間事業者が撤退している地域も出てきています。</p> <p>本計画は、将来を見据えてどのような方向で神戸のまちづくりを進めていくのかをお示しし、取り組みを進めるために策定していきます。</p> <p>本計画の1つの目的としては、一定の人口規模と密度を保つことで、都市機能を民間により維持・集積できる居住推奨区域を設定し、生活サービスを提供してもらえるようなまちづくりを行っていくことです。</p> <p>もう1つの目的は、ゆとりある居住区域において、地域の特徴・特性を活かしたまちづくりを行っていくことです。</p> <p>ただし、防災上課題がある区域については、お住まいの方々に、より安全・安心に暮らしていただけるよう、早期移</p>

	<p>転に向けた取組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>今お住まいの方の暮らしを守りつつ、次世代に持続可能なまちづくりを継ぐために、今の段階から心地よく健やかに住み続けられる取組みを進めていきます。</p>
--	--

(2) 前提条件

意見の要旨	神戸市の考え方
<p>推計人口の 110 万人を受け入れるのはおかしい。人口増対策の実施すべきではないか。</p>	<p>「国立社会保障・人口問題研究所」の推計方法に準拠して算出した数値では、2015 年から 2060 年にかけて約 44 万人減少し、約 110 万人になると推計しています。</p> <p>市としては人口減少を甘受するのではなく、人口増に向けて取り組む積極戦略として、「神戸人口ビジョン」と「神戸創生戦略」、「神戸 2020 ビジョン」を策定し、自然増や社会増の取組みを進めています。</p> <p>「神戸 2020 ビジョン」では、神戸が未来を担う若者に選ばれるとともに、市民の皆さんがいつまでも安心して豊かなくらしを享受できるまちとなるよう、「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」をテーマに掲げています。具体的には、若者に魅力的なしごとづくりや、文化・芸術・スポーツなど都市としての魅力を磨く取組み、若い世代が結婚、出産の希望を神戸で実現し、安心して子育て、教育ができるための切れ目のない支援など人口減少を抑える取組みを進めています。</p> <p>一方、人口減少が避けられない中でどのようにして人口減少に対応したまちづくりに取り組むかという調整戦略として、この計画を策定していく必要があると考えています。</p> <p>約 110 万人の都市を目指した計画ではありませんが、人口減少局面を迎えた中でも輝ける神戸であるように、調整戦略として「神戸市都市空間向上計画」を策定し、積極戦略と調整戦略を複眼的に進めていきます。</p>
<p>交通、子育て、教育、高齢者対策など、今の課題への対応をしてほしい。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、子育て支援や高齢福祉・介護医療・コミュニティなど、今の課題解決に向けた取組みは重要であり、各局調整しながら引き続き取り組んでまいります。</p> <p>一方で、長期的な視点にたった取組みも行う必要があります。現在の課題への対応と長期的な課題への対応を、バランスよく取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>50 年先を見据えた計画は先を見すぎており、具体的ではない。</p>	<p>神戸市の人口は、短期的にみると減少は大きくはないが、長期的にみると加速度的に減少していく推計のため、「神戸市都市空間向上計画」では概ね 50 年先を見据えた長期的な視点で検討を進めています。</p> <p>めざす都市空間にむけた取組みを進めるにあたり、多様なライフスタイルに応じた居住を実現するために、概ね 50 年という長期間で考えています。</p> <p>また、都市機能の誘導に際しても、概ね 50 年という期間中、多くの建物が更新時期を迎えるため、人口減少に対応しながら緩やかに理想的な配置に見直していきたいと考えています。具体的な施策については、今後検討を進めていきます。</p>

<p>三宮一極集中ではなく、市全体でバランスのとれたまちづくりをしてほしい。</p>	<p>「神戸市都市空間向上計画」は、三宮一極集中を促進するための計画ではなく、人口減少に対応するバランスのとれたまちづくりを進めるためのものです。</p> <p>都市機能誘導区域は、「都心」、「旧市街地型」、「郊外拠点型」の3種類の設定を考えており、三宮だけではなく、全市のバランスを考えながら、検討していく予定です。</p>
<p>居住権・財産権を奪う計画である。</p>	<p>「神戸市都市空間向上計画」は、居住権・財産権を奪う計画ではありません。「ゆとりある居住区域」は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的とする区域ではありませんが、引き続き居住していただくことができ、地域ごとに特徴・特性を活かした区域としています。</p>
<p>企業連携や近隣市との連携など広い視点で議論すべき。</p>	<p>「立地適正化計画」は、都市計画だけではなく、都市全体の観点から、居住機能や都市機能の立地、公共交通の充実等に関し、公共施設の再編、国公有財産の最適利用、医療・福祉、空家対策の推進等のまちづくりに関わる様々な施策と連携を図るものです。</p> <p>また、神戸市だけではなく近隣市とも情報共有など連携を図りながら検討を進めています。</p>
<p>前提条件の記述があいまいで内容がよく分からない。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえ、「基本的な考え方 修正案」を公表し市民意見募集を行う予定です。また、分かりやすく表記することにも努めていきます。</p>

### (3) 区域設定

意見の要旨	神戸市の考え方
<p>居住誘導区域外の地価の下落、区域内の地価の高騰を招く。</p>	<p>国土交通省は、「立地適正化計画」の策定により、ただちに地価水準への大きな変動が生じるものではない、との見解を示しており、神戸市も国と同様の考えです。</p>
<p>居住誘導区域の過密により、学校や保育所、介護施設が不足するのではないか</p>	<p>居住誘導区域は、民間の提供するサービスを維持できるように人口規模や密度を保つ区域を設定するもので、過度な集約を進めるものではありません。学校・保育・介護などの都市機能の集積状況や今後の人口動向のバランスを見ながら関係各局が連携して取り組みを進めていきます。</p>
<p>居住誘導区域外の公共サービスが低下するのではないかと、住民を見捨てるのか。</p>	<p>「ゆとりある居住区域」は、都市機能の集積を目的とする区域ではありません。この都市機能は、ある程度広い範囲に対してサービスを行う施設、たとえば区役所や図書館などを想定しており、多くの人がアクセスしやすいよう、駅周辺に立地することが望ましいと考えています。</p> <p>一方、日常生活に必要な身近な機能である子育て支援の機能などは、駅周辺のみではなく「ゆとりある居住区域」にも必要だと考えています。</p> <p>この計画は、今お住まいの方の暮らしを守りつつ、次世代に持続可能なまちづくりを引継ぐために、今の段階から長い時間をかけて取り組みを進めていくことを目的としています。</p>

<p>ゆとりある居住区域は、非可住地になるのか。住宅以外への用途に転換とはどういうことか。切り捨てないでほしい。</p>	<p>「ゆとりある居住区域」は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的とする区域ではありませんが、引き続き居住していただくことができ、住民・行政・事業者が一緒になって地域の特徴・特性を活かした暮らしを考えていく区域としています。神戸市としては、国の方針に沿って「居住誘導区域」だけ示すのではなく、居住誘導区域外においても「ゆとりある居住区域」として今後のまちづくりの方針を示すことで市民のみなさまに安心してもらい、前向きにまちのあり方を考えてもらいたいという視点でお示ししています。</p> <p>神戸市には、鉄道駅が近くにないなど交通利便性が決して高くないエリアも多くありますが、インフラが整っており快適な暮らしができるエリアや、豊かな田園と共存しているエリア、観光に特化しているエリアなど、多様な特徴・特性をもったエリアが多くあります。</p> <p>このようなエリアの特徴を活かしたゆとりある暮らしが出来るようにするため、今後増えてくることが予想される空家空地などは、住宅としての活用を図りながら、場合によっては住宅以外の用途転換、たとえば緩やかに広場などに土地利用転換を図っていくことも考えられます。</p> <p>また、現状でも、神戸市内でスーパーなどの生活利便施設が撤退し、地域の皆様が不便に感じる事象が発生しています。民間の生活利便施設が提供できない地域に、どのようにして必要な生活サービスを確保するかといった課題も見込まれます。</p> <p>これまでも協働と参画によるまちづくりを進めてきましたが、今後も、これらの課題について、地域のみなさまと共にまちづくりのあり方について考え、話し合いながら進めていきたいと考えています。</p>
<p>ニュータウンがゆとりある居住区域に含まれると考えられる。神戸市が開発してきたニュータウンの責任を果たさなければいけないのではないのか、ニュータウンの切り捨てではないか。</p>	<p>ニュータウンや海上都市の開発は、当時の人口増に対応した受け皿を作りつつ、都市の発展に資するという社会情勢や経済情勢に沿った的確な計画であったと考えています。</p> <p>ただし、建設から長期間が経った団地においては、人口減少や高齢化、施設の老朽化などのオールドタウン化の課題が顕在化してきています。そこで、平成 26 年度から、モデル団地において住宅、交通、商業、福祉などの多岐の分野にわたり、ハード施策からソフト施策、若い世代を呼び込む施策から高齢者の安全安心な暮らしの確保に関する様々な施策を住民とともに検討し、地域に応じた必要な施策を実施しているところです。</p> <p>今後もこれまで地域と共に取り組んできたオールドタウン対策を継続しながら、市民・事業者・行政が一緒になって地域の特徴・特性を活かした暮らしを長期的な視点で考えていきます。</p> <p>なお、神戸市都市空間向上計画における具体的な区域設定は検討中です。</p>
<p>移転促進区域からはすぐに出ないといけないのか。防災上課題のある地域は、人口減少の有無にかかわらず対応が必要。</p>	<p>「移転促進区域」は、防災上課題があり、現状では居住に適さないもしくは何らかの対策が必要で、移転が望ましい区域として設定します。具体的な区域については、土砂災害防止法などに基づく指定区域の指定状況を踏まえて検討を進めるとともに、施策の方向性についても検討を進めます。具体的な区域設定基準については「基本的な考え方修正案」でお示しし、市民意見募集を行う予定です。</p>

<p>区域設定の基準を教えてください。</p>	<p>具体的な区域設定基準については「基本的な考え方 修正案」でお示しし、市民意見募集を行う予定です。</p>
<p>「居住推奨区域 A」、「居住推奨区域 B」、「ゆとりある居住区域」に区域を指定する必要性が分からない。</p>	<p>国の制度である「立地適正化計画」は、市街化区域の中に居住誘導区域を設定することとされており、「神戸市都市空間向上計画」では、居住誘導区域となる「居住推奨区域 A」、「居住推奨区域 B」を設定します。これらの区域は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的としています。</p> <p>居住誘導区域外となる「ゆとりある居住区域」は、広い範囲を対象とした都市機能の集積を目的とする区域ではありませんが、引き続き居住していただくことができ、住民・行政・事業者が一緒になって地域の特徴・特性を活かしたくらしを考えていく区域としています。神戸市としては、国の方針に沿って「居住誘導区域」だけ示すのではなく、居住誘導区域外においても「ゆとりある居住区域」として今後のまちづくりの方針を示すことで市民のみなさまに安心してほしい、前向きにまちのあり方を考えてもらいたいという視点でお示ししています。</p> <p>神戸市には、鉄道駅が近くにないなど交通利便性が決して高くないエリアも多くありますが、インフラが整っており快適な暮らしができるエリアや、豊かな田園と共存しているエリア、観光に特化しているエリアなど、多様な特徴・特性をもったエリアが多くあります。</p> <p>このようなエリアの特徴を活かしたゆとりあるくらしが出来るようにするため、今後増えてくることが予想される空家空地などは、住宅としての活用を図りながら、場合によっては住宅以外の用途転換、たとえば緩やかに広場などに土地利用転換を図っていくことも考えられます。</p> <p>また、現状でも、神戸市内でスーパーなどの生活利便施設が撤退し、地域の皆様が不便を感じる事象が発生しています。民間の生活利便施設が提供できない地域に、どのようにして必要な生活サービスを確保するかといった課題も見込まれます。</p> <p>区域設定をすることで、人口減少がまちに与える課題を市民のみなさまと共有し、それらの課題に対して真摯に向き合い、前向きにまちのあり方をみなさまと考えていきます。</p>

(4) 都市機能誘導施設

意見の要旨	神戸市の考え方
<p>都市機能誘導施設は何を集めてくるのか。</p>	<p>具体的な施設については「計画素案」でお示しし、市民意見募集を行う予定です。</p>

(5) 周知方法、スケジュール

意見の要旨	神戸市の考え方
<p>市民の意見を十分に聞くべき。4か月で地域指定は短すぎる。</p>	<p>「神戸市都市空間向上計画 基本的な考え方(案)」では、今回の市民意見募集に加え、平成30年(2018年)7月頃に「計画素案」の市民意見募集、平成31年(2019年)1月頃に「計画案」の市民意見募集、平成31年(2019</p>

	<p>年) 6月頃に計画策定を予定しており、当初から、市民のみなさまのご意見をお聞きしながら進める予定をしています。</p> <p>今回、より丁寧に説明・周知を行うために、これまでいただいたご意見や議論の内容を踏まえた「基本的な考え方修正案」をお示しし、市民意見募集の手続きを加え、計4回の市民意見募集を実施することとしました。</p> <p>今後も、ワークショップや説明会、相談所の設置など、みなさまのご意見をお聞きする場を多く設ける予定です。検討内容については、広報紙KOBÉへの掲載や市ホームページでの公表などを活用し、分かりやすく確実な周知を図り、様々な年齢層・地域における意見を丁寧に聞きし、計画に反映していきたいと考えています。</p>
--	--

(6) 施策

意見の要旨	神戸市の考え方
施策の提案や施策検討の視点について	人口減少局面を迎えた今、それぞれの区域にふさわしい、地域の特徴を活かした適切な施策を、これから市会での議論や市民、有識者のみなさまのご意見を踏まえて検討を進め、地域のみなさまと共にまちづくりのあり方について考え、話し合いながら進めていきたいと考えています。

(7) その他意見

意見の要旨	神戸市の考え方
その他意見	いただいたご意見は、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。